OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国における親の子に対する海外留学期待 : 地域教育機会と家庭構造がもたらすジェンダーギャップ
Author(s)	侯, 嫻雅
Citation	年報人間科学. 2026, 47, p. 17-31
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103922
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈論文〉

中国における親の子に対する海外留学期待
――地域教育機会と家庭構造がもたらすジェンダーギャップ

侯　嫻雅

要旨

中国における留学ブームの中で、留学生数は著しい増加を見せている。しかし、それは社会全体に均等に広がる現象だろうか。本稿は、中国家庭追跡調査（CFPS）2018年のデータを用いて、省レベルにおける高等教育機会の豊富さが、親の子に抱く海外留学期待に与える影響を、家庭構造の違いに着目して実証的に分析した。分析結果から、高等教育機会が豊富な地域では、一人っ子家庭の女子に対する海外留学期待が低下する一方で、男子に対する期待には維持していることが明らかになった。この非対称な効果により、高等教育機会が豊富であるにもかかわらず、むしろ海外留学を期待する際のジェンダー格差が拡大するという逆説的な現象が明らかとなった。この発見は、資源制約の緩和が必ずしも国際教育期待における格差是正につながらないことを示唆している。背景には、女子には「国内の高品質な教育機会による代替効果」が、男子には「息子を優先する文化的慣行に基づく投資戦略」がそれぞれ働くという、ジェンダー化された選好メカニズムの存在が考えられる。本稿は、地域の高等教育機会、家族構造、ジェンダーという三つの要素が交差する点に着目し、親の子に対する海外留学期待の形成プロセスに関する新たな説明モデルを提供するものである。

キーワード

海外留学期待、家族構造、高等教育機会、地域格差、ジェンダー

1．はじめに

過去半世紀にわたり、高等教育を受けるため海外に留学する学生数は著しく拡大を続けている。1965年には世界全体で約25万人であった留学生数は、2020年には500万人に達し、1990年代以降に限れば4倍以上に増加した。現代における留学生の半数以上はアジア諸国から送出され、特に中国やインド、韓国などが主要な送り出し国として先行している。2019年には70万3500人の中国人学生が海外で学び、前年比6.3%増という顕著な伸びを示している（Ministry of Education 2022）。全世界の留学生総数に中国人が占める割合は17.5%に達する（UNESCO 2022）。しかし、海外留学を志向する中国家庭が増加する一方で、親の子に対する海外留学期待には。伝統的な性別役割期待や地域間の教育格差がいかなる影響を及ぼしているのか、その実態は十分解明されていない。特に、子の性別や出生順序（一人っ子か否か）に応じて、親が教育機会をどの配分し、それが地域ごとの教育資源の構造とどう相互作用するのかについては、検討

が十分とは言えない。

1999 年以降の高等教育拡大政策により、中国の高等教育はエリート教育から大衆教育へと移行している（陸 2021）。それに伴い、学歴の獲得とその価値に対する社会的関心が高まっている。しかし、高等教育の拡大より教育機会の拡大に伴い教育・学歴の競争も一層高まっている。高等教育の大衆化は社会階層間の移動と教育機会の均等化を促し、不利な家庭背景を持つ者にも上昇移動の機会をある程度もたらしたものの（梁・李 2012；崔・呉 2018）、戸籍制度や地域間の構造的格差に起因する教育の質へのアクセスには依然として多くの不平等が存在している（李 2010；呉 2013；呉 2016）。このような地域間格差は、親の教育期待や進路選択―海外留学を重視するか、国内教育で足ると判断するか―にも差異をもたらすと推測されるが、その実証は依然として不十分である。

加えて、1979年の「一人っ子政策」導入から2016年「二人っ子政策」全面実施までの間に形成された一人っ子家庭と多数子家庭では、教育資源の配分戦略が異なると考えられる。一人っ子政策および中間層の経済的余裕の増大は、子どもの教育への集中投資を可能とし、高等教育の量的拡大を促進した（Cai et al. 2010）。しかしその結果、高等教育は激烈な競争の場へと変貌を遂げ（Samir et al. 2010）、教育機会の地域格差が拡大する中で、国内外双方における「教育をめぐる移動」を加速させる一因となった。このような状況下、一人っ子家庭では資源を唯一の子に集中投入しやすいのに対し、多数子家庭ではリスク分散の観点から投資を分散させることが想定される。しかし、家庭構造の違いが、子の性別と地域の教育資源という要因と相互作用し、親の子に対する海外教育期待をどう形成するかについては、実証研究が乏しいままである。そこで、本稿は地域間の教育格差と家族構造に着目し、親の海外留学期待が子の性別によってどのように差異を持つかを実証的に検討する。

2．先行研究

2.1 地域間教育格差と親の教育戦略

教育達成は社会移動の主要な経路とみなされ、個人の上昇移動の可能性は、質の高い教育機会へのアクセスに大きく依存している。中国では、子どもにより良い教育を提供するため、学区房（学区内不動産）の購入や転居といった戦略的投資を行う家族が少なくない（Hansen 2014; Holme 2002; Song et al. 2023; Zhang 2024）。こうした行動は、教育が家庭戦略の中核を成すことを示唆している。

中国における教育機会の不均等は、長期にわたり多層的な地域格差として持続してきた。義務教育段階では就学率の向上により一定の均等化が進んだものの、高等学校及び高等教育では、規模拡大にもかかわらず、量的・質的両面における機会の格差が未だに解消されていない。李（2010）や呉（2016）の実証研究によれば、高等教育の拡大は特定階層間における格差を縮小させたように見える一方、社会経済的階層、戸籍、地域、学校種別といった多次元における不平等は、むしろ複雑化・先鋭化する傾向がある。

居住地域が教育成果を規定する重要な要因であることも、既存研究によって明らかにされている。GolleyとKong（2018）は、個人の最終教育年数が父親の学歴や戸籍属性と同程度に、児童期に居住し

た省の特性によって説明可能であると指摘した。HannumとWang（2006）は、1976〜1980年出生コーホートにおいて、北京とチベットの出身者間で平均教育年数に9年以上の差があったことを報告し、省間格差の深刻さを浮き彫りにしている。さらにHanとGao（2023）は、高等教育の地域格差指標に基づき、中国が高等教育大衆化に入ったものの、教育資源の投入格差が地域間の発展を持続的に制約し、新たな不平等を再生産していると論じる。このような国内の教育格差は、国際教育への志向にも影響を及ぼす。同様に、Nuhoglu SoysalとCebolla Boado（2024）は、海外との接触機会が相対的に多い省では、国際教育への関心が高い傾向があることを実証している。

また、親が子の国際教育を「社会移動」や「文化資本の再生産」を図る手段として捉える傾向も、多数の研究で指摘されている(Zhou et al. 2019; Huyen et al. 2023; Lörz et al.2016; Yang et al. 2020)。中国においては、新富裕層が経済資本を文化資本に変換する方法として教育移住を利用し、国際教育が社会的・経済的に恵まれた層に限られた特権的機会として商品化される傾向がある（Xiang & Shen 2009）。加えて、富裕層の家庭では、海外留学が国内の激烈な教育競争における潜在的失敗を相殺する戦略として位置付けられる（Zhou et al. 2019; Yang et al. 2020; 周2022）。

よって、地域ごとの高等教育機会の豊富さや競争の程度は、親の教育戦略、とりわけ海外留学への期待に直接的な影響を及ぼすと考えられる。しかしながら、既存研究の多くは家庭の社会経済地位に分析の焦点を置くにとどまり、省レベルにおける高等教育機会の格差と親の海外留学期待との関連を実証的に検証した研究は十分とは言えない。

2.2 家族規模と親の教育戦略

家族規模は、教育投資の集中度、投資内容、および資源配分の在り方に重要な影響を与える。一人っ子家庭では、資源を一人の子どもに対して集中的に投入しやすい一方、多数子家庭では、資源の希薄化や家計内におけるリスク分散の観点から、投資が複数の子へ分散される傾向がみられる。兄弟姉妹がいない一人っ子は、親からの注意、時間的投入、情緒的サポートをより多く受けるため、結果として課外活動や個別指導といった個別化された教育機会を享受する割合が高くなる（Wang & Feng 2021; Lin 2019）。このような集中型投資の背景には、限られた子どもの教育成果を最大化させようとする親の合理的判断が存在する。

従来の研究では、子ども数の増加に伴い一人当たりの教育資源が減少するという「資源希薄化仮説」が広く支持され（Powell & Steelman 1990；Downey 1995；Sandefur & Wells 1999）、子どもが多い世帯では各子への投資が物理的に分散せざるを得ないことが指摘されてきた。しかし近年では、きょうだい間の相互学習や家計内での規模の経済が働くことなどにより、子ども数増加が必ずしも教育成果の低下につながらないとする実証結果も複数報告されている（Chan et al. 2019; Diaz & Fiel 2020; Choi et al. 2020; Li et al. 2017）。例えばLaoとLin（2022）は、中国において一人っ子家庭の子どもは二人っ子家庭の子どもと比べて学力や非認知能力（意志力・外向性など）でやや劣る傾向があり、きょうだいの存在がむしろ発達上の利益をもたらす可能性を指摘している。また、親の社会経済的地位が高い場合、家族規模にかかわ

らず教育投資水準が維持されうることも示されている（Liu et al. 2024）。

性別に着目すると、葉と呉（2011）は、一人っ子政策に伴う出生率低下が家庭構造と教育投資における性別間格差を変化させ、若年層を中心に教育の機会平等が進んだと報告する。一人っ子家庭の女子は、きょうだいと競争しないため比較的豊富な教育機会を得やすい一方、社会に残る男系優先の価値観によってその効果が部分的に相殺される場合もある (Wang & Feng 2021) 。

以上のように、家族規模は教育投資の意思決定において重要な要因であるものの、その影響は社会経済的背景や家族内の資源環境、さらに広い社会文化的文脈によって修正を受けうる。これは、国際教育への期待のように高額で戦略的な教育選択を考察する上でも看過できず、家族内資源配分の観点から検討する意義は大きい。しかしながら、家族規模と国際教育を直接結び付けた実証研究は依然として少なく、特に中国の地域間差異を考慮した分析は少ない。

2.3 親による教育期待と子の性別差異

中国社会では、家父長制的な家族構造と儒教的価値観に基づく「重男軽女」（男子優先）の意識が歴史的に強く、親は男子に対し女子より多くの教育機会を付与する傾向があった（Lee 2014）。その結果、女性は家庭内外における資源配分や自己成長の機会において体系的に不利な立場に置かれてきた（Shu 2004）。

しかし、1979年の「一人っ子政策」導入、1985年の義務教育法実施、さらに1999年の高等教育拡大政策といった一連の政策的変化により、伝統的な家族モデルは変容を迫られ、「2+1」の核家族形態が標準的な世帯構成として広く定着した（Greenhalgh 2008）。こうした変遷を経て、教育機会と学業達成の面における性別間格差は縮小傾向を示し、場合によっては女性が男性を上回る現象も観察されるようになった（Lee 2014；Zeng et al. 2014; Treiman 2013）。具体例として、大学進学率の男女比は1982年以降一貫して上昇し、2009年には女子学生の数が男子学生を逆転させた（李・林 2022；Liu et al. 2020）。とはいえ、都市と農村の間あるいは社会経済階層間における格差は残存し、農村部や低所得世代の女子は依然として教育機会の面で不利な立場に置かれている（李春玲2009；呉愈暁 2012；呉愈暁・黄超 2015；許琪 2018）。

国際教育への期待という観点から見ると、女子は男子よりも海外留学に対し高い意欲を持つとする研究が多数存在する（Mol 2022; Hurst 2019; Luo and Jamieson-Drake 2015）。これは、女子の方が「異文化感受性」が高く、海外での生活や学習に対する適応力や関心が強いためと考えられる（Cordua and Nicolai 2021; Mol 2022; Tompkins et al. 2017）。さらに、社会経済的地位が高い女性であるほど、異文化体験に対する選好が強く、積極的に留学を志向する傾向も指摘されている（Cordua and Nicolai 2021）。他方、親の立場から見ると、中国や韓国などの東アジア社会では、子どもの国際教育を社会的地位の再生産や上昇を図る戦略として捉える傾向が強い（Zhou et al. 2019; Xue et al. 2018）。加えて、国内の環境問題などへの懸念から、より健康的な生活環境を求めて子どもを早期から海外に送り出そうという動機も無視できない（Yang et al. 2020; Zhu & Yang 2022）。

このように、教育機会の量的拡大に伴い性別格差は全体的に縮小しているものの、国際教育という戦略的選択局面においては、女子自身の高い進学意欲や親の地位達成戦略などを通じ、新たな形でジェンダーが影響を及ぼし続けている可能性が示唆される。

3．仮説

伝統的な性別役割規範と家父長制的な価値観の持続的影響を考慮すると、親は男子に対して、女子よりも高い教育期待、特にコストが高い海外留学への期待を抱く傾向が強いと予想される。加えて、一人っ子政策や高等教育拡大政策の進展に伴い性別格差は縮小傾向にあるとの議論も存在するものの、中国における教育獲得の性別差は都市と農村、あるいは社会経済階層間において依然として顕著であることが指摘されている（呉愈暁・黄超2015；許琪2018）。よって、以下の仮説を設定する。

仮説 1　女子と比較して、男子に対して親の海外留学期待が高い。

地域の高等教育機会は、親の留学期待形成に対して「機会シグナル」として機能すると考えられるが、その効果は家庭内の資源配分戦略、すなわち家庭構造によって異なることが予想される。一人っ子家庭では資源集中型の投資戦略が採用されるため、当該地域の高等教育機会が相対的に乏しい場合、海外留学は代替的上昇経路として重要視されやすい。一方、多数子家庭では、資源分散型の戦略が採られ、リスク回避的傾向が強い(Powell & Steelman 1990；Downey 1995)。しかしながら、地域資源そのものが豊富である場合、情報やサービスへのアクセスが向上し、海外留学を含む多様な進路の現実的検討が促進され、期待が高まることが考えられる。したがって、以下の2つの仮説が導かれる。

仮説 2a　一人っ子家庭において、高等教育機会の豊富さが低い地域では高い地域と比べ、親による海外留学期待が高い。

仮説 2b　多数子家庭において、高等教育機会の豊富さが高い地域では低い地域と比べ、親による海外留学期待が高い。

さらに、地域の高等教育機会の豊富さは、親の性別役割期待と交互作用し、留学期待における性別格差を調整すると考えられる。高等教育機会が豊富な地域では、女子に対しては「国内進学で十分」という判断が行われやすい一方、家父長制的な意識の残存により男子に対する高い期待は維持されやすい。よって、以下の条件付き効果が予想される。

仮説 3　女子と比較して、男子に対して親の海外留学期待が高いという関連は、高等教育機会の豊富さが高い地域においてより顕著である。

4．データと使用変数

本研究は、北京大学社会科学調査センターが実施する縦断調査 China Family Panel Studies (CFPS) の2018年波（Wave5）を主要データとして用いる。CFPSは全国代表的な無作為抽出パネル調査であり、回答率が高く、親の「子どもの海外留学期待」に関する質問項目を含むことから、本稿の分析目的に適している。特に、COVID-19の影響で国際移動が制限される前年のデータを用いることで、パンデミックに伴う一時的な攪乱要因を回避し、親の海外留学期待形成における通常メカニズムに焦点を当てている。分析対象は、2018年時点で既婚であり未成年の第一子がいる世帯に限定した。家庭構造の違いを考慮し、一人っ子家庭（only-child）と多数子家庭（multiple-children）に分けて分析を行った。データの前処理および欠損値処理後の有効サンプル数は、一人っ子家庭が1,874ケース、多数子家庭が1,501ケースである。

従属変数は、親の第一子に対する海外留学期待の有無とし、「子どもの海外留学を期待する」と回答した場合を1、「期待しない」と回答した場合を0とする二値変数を使用した。独立変数としては、子の性別として男子を1、女子を0とするダミー変数を用いた。さらに、地域（省）水準の教育構造を親への「機会シグナル」と見なし、その操作的指標として地域高等教育進学機会指標を導入した。この指標は国家統計局の2018年のデータを用いて、各省における大学在籍者数と普通高校在籍者数の比率で構築し、値が大きいほど高校卒業者に対する高等教育在学枠が相対的に豊富であることを意味する。本稿では、省別高等教育進学機会指標の中央値を基準に二値化した変数（機会の豊富さが高い地域を1、機会の豊富さが低い地域を0）を主要な独立変数として用いた。

統制変数としては、親の性別（男性を1、女性を0）、年齢、戸籍（農村戸籍を1、都市戸籍を0）、雇用機関（政府・公的機関、国有企業、外資系企業、民間企業・その他の4カテゴリ）、個人年収（対数変換）、学歴（大卒を1、非大卒を0）、さらに第一子の就学段階（未就学、小学校、中学校の3カテゴリ）を使用した。以上の変数の記述統計量については、表1に示した。

5．分析

表2に、親の第一子に対する海外留学期待を従属変数とし、家庭構造別に推定した二項ロジスティク回帰分析の結果を示す。一人っ子家庭モデルにおいて、交互作用項を投入しない基本モデルでは、親の学歴と個人収入が親の海外留学期待に対して統計的に有意な正の関連を示した。これは、親の人的資本および経済的余裕が子どもへの教育期待を高めるという従来の知見と整合的である。さらに、第一子が男子である場合、親の海外留学期待が有意に高く、また地域の高等教育機会の豊富であるほど、親の海外留学期待は低くなることも観察された。これらは、一人っ子家庭に対して仮説1および仮説2aが支持されることを示唆している。

表 1 各変数の平均値と度数分布

	全サンプル	一人っ子家庭	多数子家庭
変数	M(S.D.)/%	M(S.D.)/%	M(S.D.)/%
年齢	33.56 (6.16)	32.65 (6.38)	34.43 (5.81)
性別			
男性	48.30%	48.40%	48.21%
女性	51.70%	51.60%	51.79%
戸籍			
農村戸籍	74.04%	63.38%	84.15%
都市戸籍	25.96%	36.62%	15.85%
学歴			
大卒	21.13%	31.35%	11.48%
非大卒	78.87%	68.65%	88.52%
個人収入（対数）	10.43 (0.91)	10.52 (0.88)	10.32 (0.93)
雇用機関			
政府および事業機関	12.22%	14.78%	9.07%
国有企業	11.16%	13.38%	8.43%
外資系企業	3.35%	3.63%	3.01%
民間およびその他	73.28%	68.21%	79.50%
第一子年齢	7.51 (4.37)	6.15 (4.40)	8.8 (3.93)
第一子性別			
男性	52.74%	56.99%	48.72%
女性	47.26%	43.01%	51.28%
第一子就学段階			
未就学	79.73%	84.81%	74.93%
小学校	16.71%	12.28%	20.90%
中学校	3.56%	2.91%	4.17%
地域高等教育機会の豊富さ			
高い	54.15%	63.13%	45.65%
低い	45.85%	36.87%	54.35%
第一子に対する海外留学期待			
期待する	21.13%	23.75%	18.64%
期待しない	78.87%	76.25%	81.36%

ジェンダーの効果が地域高等教育機会の豊富さによって異なることが考えられたため、交互作用効果についても検討した。分析の結果、第一子の性別と地域高等教育機会の交互作用項が5%水準で統計的に有意であった。図1に示された予測値から、高等教育機会が豊富な地域では、男女間の海外留学期待差がより拡大する傾向が確認される。つまり、一人っ子家庭においては、仮説3が支持される。

一方、多数子家庭モデルでは、親の学歴や収入の効果は統計的に有意ではなかった。第一子が男子であることおよび地域の高等教育機会が豊富であることは、10%及び5%水準で弱い正の関連が認められ、仮説1及び仮説2bがおおむね支持される結果となった。しかし、交互作用効果は統計的に有意ではなく、多数子家庭において仮説3は支持されなかった。

表 2 二項ロジスティック回帰分析

	一人っ子家庭		多数子家庭	
VARIABLES	B (S.E.)	B (S.E.)	B (S.E.)	B (S.E.)
年齢	0.013	0.014	-0.011	-0.011
	(0.016)	(0.016)	(0.018)	(0.018)
性別（ref. 女性）	-0.131	-0.128	0.154	0.148
	(0.120)	(0.120)	(0.158)	(0.158)
戸籍（ref. 都市戸籍）	0.050	0.041	-0.234	-0.236
	(0.131)	(0.132)	(0.189)	(0.189)
学歴（ref. 非大卒）	0.381**	0.373**	0.188	0.197
	(0.135)	(0.136)	(0.212)	(0.213)
雇用機関（ref. 政府および事業機関）				
国有企業	0.233	0.223	-0.391	-0.411
	(0.198)	(0.198)	(0.322)	(0.323)
外資系企業	0.196	0.181	0.026	0.028
	(0.307)	(0.308)	(0.436)	(0.436)
民間およびその他	0.178	0.176	0.016	0.006
	(0.165)	(0.165)	(0.245)	(0.246)
個人収入（対数）	0.250**	0.246**	0.153	0.151
	(0.080)	(0.080)	(0.101)	(0.101)
第一子年齢	-0.036	-0.038	-0.018	-0.019
	(0.025)	(0.025)	(0.029)	(0.029)
第一子性別（ref. 女性）	0.377***	0.016	0.260 †	0.118
	(0.114)	(0.182)	(0.140)	(0.208)
第一子就学段階（ref. 未就学）				
小学校	0.262	0.274	0.073	0.086
	(0.231)	(0.232)	(0.247)	(0.247)
中学校	-0.206	-0.204	0.007	0.011
	(0.445)	(0.445)	(0.498)	(0.499)
地域高等教育機会の豊富さ（ref. 低い）	-0.307**	-0.666***	0.309*	0.169
	(0.118)	(0.185)	(0.143)	(0.208)
第一子性別 × 地域高等教育資源		0.584*		0.258
		(0.233)		(0.282)
N	1,874	1,874	1,501	1,501

† p<.10, *p<.05, **p<.01, ***p<.001

以上より、親の男子に対する海外留学期待が家族構造を問わず観察される一方、地域の高等教育機会の効果は家族構造によって異なることが明らかとなった。一人っ子家庭では地域の高等教育機会の豊富さが海外留学期待を抑制し、かつ男女格差を拡大させるのに対し、多数子家庭ではむしろ海外留学期待を促進するが、性別による差は拡大しない。これは、資源制約の厳しい多数子家庭においては、地域の高等教育機会の豊富さが情報アクセスや機会認知を向上させ、積極的な海外留学検討を促すためと考えられる。

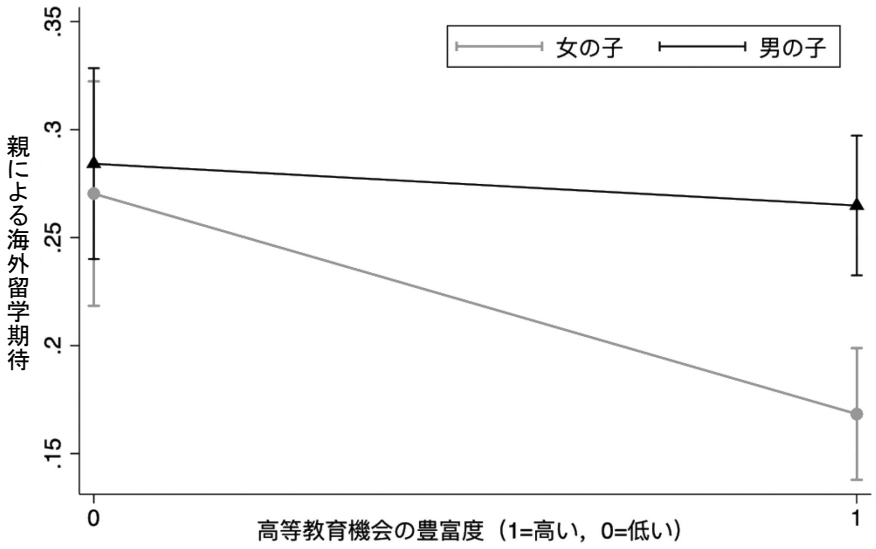


図 1 親による海外留学期待の予測値（一人っ子家庭）

6．考察と議論

6.1 分析結果について

本稿は、中国全国代表データ（CFPS2018）を用い、親の第一子に対する海外留学期待が、子の性別および省レベルの高等教育機会の豊富さによって如何に条件付けられるかを、家庭構造（一人っ子家庭と多数子家庭）に分けて実証的に検証した。分析結果は、家族構造が高等教育機会の豊富さと性別の効果を調整する重要な要因であることを明らかにした。本稿は、資源希薄化仮説や人的資本理論といった既存の理論に対し、家庭構造と地域資源というコンテクストを導入することで、新たな視座を提供するものである。

主要な知見は以下の三点である。第一に、親の学歴および所得の効果は、家庭構造によって異なることが明らかになった。一人っ子家庭では、これらの要因は海外留学期待を強く高めるのに対し、多数子家庭ではその効果は統計的に有意ではなかった。この発見は、人的資本理論が示すメカニズムが、家庭内部の資源配分戦略（集中型か分散型か）という文脈に依存していることを示唆している。第二に、一人っ子家庭では、高等教育機会が豊富な地域において、女子に対する海外留学期待が有意に低下する一方、男子に対する期待は維持され、結果として性別格差が拡大する傾向が観察された。第三に、多数子家庭では、高等教育機会の豊富さは親の子に対する海外留学期待を全体的に高めるものの、性別による期待の差を左右する効果は見られず、男女間で比較的均質な期待配分が行われることが明らかになった。

これらの結果は、高等教育機会の拡大が常に海外留学期待におけるジェンダー平等を促進するわけではないという複雑なメカニズムを示している。一人っ子家庭では、資源集中型の特性から、地域の高等教育機会の豊富さが高い場合、女子には「国内進学で十分」という判断が下され、相対的に海外留学期待が低

下する。他方、男子優先など伝統的な価値観の残存により、男子に対する高い教育期待は維持されやすい。これに対し、多数子家庭では、資源分散とリスク管理の必要性から、地域の高等教育機会の豊富さは男女を問わず海外留学期待を高める一方、性別に基づく選別は生じにくい。このように、海外教育投資における意思決定は、単純な経済的制約や性別選好のみでは説明できず、家族の内部構造と外部の教育環境が複合的に影響している。

6.2 議論

一人っ子家庭において、高等教育機会が豊富な地域では、親の女子に対する海外留学期待が低下する一方で、男子に対する期待は維持され、ジェンダー格差が拡大するという逆説的減少は、どのように説明できるだろうか。本分析の結果は、「国内教育の代替効果」と「ジェンダー化された投資戦略」という二つのメカニズムが交差する現象として理解できる。

第一に、「国内教育の代替効果」が女子に対して特に強く働いている。高等教育機会が豊富な地域では、親は女子に対して「国内の高品質な教育機会で十分である」と判断し、高コスト・高リスクな海外留学の必要性を相対的に低く見積もる傾向がある。これは、女子の教育投資に対する親のリスク回避的態度を示している。一方、男子に対しては、伝統的な性別役割期待に基づき、「より競争力的な優位性の確保」や「国際的な人的資本の形成」が求められるため、国内の高等教育機会が豊富であっても海外留学への期待が維持されやすい。

第二に、家族的戦略におけるジェンダー・バイアスの影響が持続している。一人っ子家庭では資源集中型の投資が可能であるものの、その配分は無意識の性別役割観に影響を受ける。中国社会では、男子は「家系の継承者」「社会的成功を達成すべき存在」として位置づけられる傾向が依然として強く、女子に対する教育投資は「適度な水準で十分」とする文化的傾向が残存している（Hannum et al. 2009; Si 2022; Wang & Chen 2023）。このような背景のもと、高等教育機会が拡大する環境では、むしろ既存のジェンダー格差が顕在化する逆説的メカニズムが動いていると考えられる。

第三に、親のリスク選好の性差も影響している。海外留学は不確実性の高い投資であるため、親は女子には「安全志向」を、男子には「積極投資」を適用する二重の基準を持っている。つまり、女子には国内の確実な進学機会を優先させる一方、男子には国際的な競争力の獲得を期待する戦略的思考が働いていると考えられる。

これは、文化再生産理論が示すように、教育選択が単なる経済的合理主義だけでなく、文化的・社会的に構成されたハビトゥスに強く影響されることを示唆している。親は、客観的な教育機会の豊富さという同じ条件に対しても、子の性別によって異なる意味づけを与え、異なる資源配分戦略を採用する。この結果、機会の拡大が必ずしも平等を促進せず、むしろ潜在的だったジェンダー格差を可視化させるという逆説的現象が生じているのである。

本稿の限界として、使用データの代表性が挙げられる。2020年以降のデータはコロナ禍による国際的な移動制限や教育環境の劇的な変化に影響される可能性が高く、分析対象から除外せざるを得なかった。

このため、パンデミック後の親の海外留学期待の変化や、オンライン教育の普及が留学意思決定に与える影響を捉えることができていない。二点目として、横断データを用いた分析であるため、因果関係の推定には根本的な制約がある。例えば、高等教育機会が豊富な地域に居住することが親の留学期待を形成するのか、あるいはもともと留学期待の高い家庭がそのような地域に集まるのか（選択効果）、という因果の方向性を明確に区別することはできない。自然実験のデザインやパネルデータを用いた縦断的分析など、より厳密な因果推論の手法が今後の研究に求められる。三点目の問題として、高等教育機会の操作化が省レベルの大学在籍数と高校在籍数の比に依拠している点が挙げられる。この指標は教育機会の量的側面を一定程度捉えてはいるものの、教育の質（大学の国際的ランキング、就職実績など）や地域別の教育予算配分、国際バカロレア認定校の数などの重要な側面を反映していない。今後は複数の指標を組み合わせた多次元的な測定と分析が必要であろう。

分析上の課題に加え、本稿では取り扱うことができなかった実質的な課題について検討する。本稿ではマクロ的な視点から親による海外留学期待に焦点を当てたが、その背後にある文化的・心理的メカニズムを十分に捕捉できなかった。親の海外経験の有無、リスク選好性、ジェンダー役割に関する固定的観念など、量的データのみでは計測が困難な深層的な要因の影響を検証できていない。また、留学の主体である子ども本人の意向や特性（語学力、海外への関心、友人関係など）は分析の枠組みに組み込まれていない。親子の意識の一致・不一致が意思決定に与える影響についても今後は研究課題である。

こうした限界はあるものの、本稿が中国国内の地域格差に焦点を当てて親の子どもに対する海外留学期待を実証的に検討した数少ない研究であることは疑い得ない。本稿の分析から、親の留学期待が単なる個人の嗜好や経済力だけでなく、居住地域という構造的な要因に強く規定されている可能性が示された。これは、教育選択や国際移動をめぐる議論において、「地域」の文脈を看過できないことを意味する。近代化やグローバル化が進む社会において、教育を通じた国際移動はますます重要性を増している。本稿が明らかにしたのは、こうした移動の機会とそれへの期待が、中国国内における地理的な機会構造と密接に連動しているという新たなパラドックスである。本研究の知見は、教育機会の均等性や海外留学促進政策を考える上で、地域間格差という重要な視座を提供するものといえる。

文献（著者姓アルファベット順）

[1] Cai H, Chen Y and Zhou LA., 2010, “Income and consumption inequality in urban China: 1992-2003,” *Economic Development and Cultural Change*, 58(3):385-413.

[2] Chan, T. W., Henderson, M., & Stuchbury, R., 2019, “Family size and educational attainment in England and Wales,” *Population Studies*, 73(2):165-178.

[3] Choi, S. et al., 2020, “Cohort trends in the association between sibship size and educational attainment in 26 low-fertility countries,” *Demography*, 57:1035-1062.

[4] Cordua, F. and Netz, N., 2021, “Why Do Women More Often Intend to Study Abroad than Men?” *Higher education*, (2022)83:1079-1101.

[5] 崔盛・呉秋翔，2018,「重点高校招收農村学生専項計划的実施成效与政策建議」『教育発展研究』38(3):18-25,50.

[6] Diaz, C.J., Fiel, J.E., 2021, “When Size Matters: IV Estimates of Sibship Size on Educational Attainment in the U.S.,” *Population Research and Policy Review*, 40(6):1195-1220.

[7] Downey, D. B.,1995, “When bigger is not better: Family size, parental resources, and children’s educational performance,” *American sociological review*, 746-761.

[8] Golley, J., & Kong, S. T., 2018, “Inequality of opportunity in China's educational outcomes,” *China Economic Review*, 51:116-128.

[9] Greenhalgh, S., 2008, “Just One Child: Science and Policy in Deng’s China,” *Berkley, University of California Press*.

[10] Han, Y., Ni, R., & Gao, J., 2023, “Regional Inequality of Higher Education Development in China: Comprehensive Evaluation and Geographical Representation,” *Sustainability*.

[11] Hannum, E., & Meiyan, W., 2006, “Geography and educational inequality in China,” *China economic review*, 17(3):253-265.

[12] Hannum, E., Kong, P., & Zhang, Y., 2009, “Family sources of educational gender inequality in rural China: A critical assessment,” International journal of educational development, 29(5):474-486.

[13] Hansen, K., 2014, “Moving House for Education in the Pre-School Years,” *British Educational Research Journal*, 40:483-500.

[14] Holme, J., 2002, “Buying Homes, Buying Schools: School Choice and the Social Construction of School Quality,” *Harvard Educational Review*, 72:177-205.

[15] Hurst, A. L., 2019, “Class and gender as predictors of study abroad participation among US liberalarts college Students,” *Studies in Higher Education*, 44(7):1241-1255.

[16] Huyen, P., Vu, T., & Doan, H. ,2023, “Factors Affecting Parents' Intention of Sending Children to Study Abroad: A Study From Vietnam,” *European Journal of Educational Research*, 12(1).

[17] Lao, Y., & Lin, S. ,2022, “Comparison of educational performance between the only children and children in two-child families,” *Scientific Reports*, 12.

[18] Lee, M. H., 2014, “Schooling and Industrialization in China: Gender Differences in School Enrollment,” *Comparative Education Review*, 58(2):241-268.

[19] Li, J., Dow, W. H., & Rosero-Bixby, L. ,2017, “Education Gains Attributable to Fertility Decline: Patterns by Gender, Period, and Country in Latin America and Asia,” *Demography*, 54(4):1353-1373.

[20] 梁晨・李中清，2012,「无声的革命——北京大学与蘇州大学学生社会来源研究 (1952-2002)」『中国社会科学』(1):98-118.

[21] 李長洪・林文錬, 2022,「中国女性崛起：父母的観念転変与女性高等教育——来自“高校停招”的経験証据」『経済学報』

(02):317-343.

[22] 李春玲，2010,「高等教育拡張与教育机会不平等——高校拡招的平等化效応考察」『社会学研究』25(3):82-113。

[23] ————, 2009,「教育地位獲得的性別差异:家庭背景対男性和女性教育地位獲得的影响」『婦女研究論叢』(1):14-18.

[24] Lin, X., 2019, “Purchasing hope”: the consumption of children’s education in urban China,” *The Journal of Chinese Sociology*, 6:1-26.

[25] Liu, A., Li, W., & Xie, Y., 2024, “Changes in family investment in children’s out-of-school education in China, 2010–2018,” Chinese Sociological Review, 56:338-374.

[26] Liu, Yixiao and Jiang, Quanbao and Chen, Feinian., 2020, “Children’s gender and parental educational strategies in rural and urban China: the moderating roles of sibship size and family resources,” *Chinese Sociological Review*, 52:1-30.

[27] Lörz, M., Netz, N., & Quast, H., 2016, “Why do students from underprivileged families less often intend to study abroad?” *Higher Education*, 72:153-174.

[28] Luo, J. and Jamieson-Drake, D., 2015, “Predictors of study abroad intent, participation, and college outcomes,” Research in Higher Education, 56(1), 29-56.

[29] 陸一，2021,「学業競争大众化与高考改革」『教育研究』42(9): 81-92.

[30] Ministry of Education, PRC, 2022, “Statistics on Chinese learners studying overseas 2019,” Available at: http://en.moe.gov.cn/ news/ press_releases/202012/t20201224_507474.html.

[31] Mol, C. V., 2022, “Exploring explanations for the gender gap in study abroad: A case study of the Netherlands,” *Higher Education*, 83(2):441-459.

[32] Nuhoglu Soysal, Y., & Cebolla Boado, H., 2024, “Transnationalization of Educational Aspirations: Evidence from China,” *Sociological Research Online*, 29(3):632-649.

[33] Powell, B. & Steelman, L. C.,1990, “Beyond sibship size: Sibling density, sex composition, and educational outcomes,” *Social Forces*, 69(1):181-206.

[34] Samir KC, Barakat B, Goujon A, et al., 2010, “Projection of populations by level of educational attainment, age, and sex for 120 countries for 2005–2050,” *Demographic Research*, 22:383-472.

[35] Sandefur, G. D. & Wells, T.,1999, “Does family structure really influence educational attainment?” *Social Science Research*, 28(4):331-357.

[36] Shu, X., 2004, “Education and Gender Egalitarianism: The Case of China,” *Sociology of Education*, 77(4):311-336.

[37] Si, W., 2022, “Higher education expansion and gender norms: evidence from China,” *Journal of Population Economics*, 35:1821-1858.

[38] Song, W., Cao, H., Tu, T., Song, Z., Chen, P., & Liu, C., 2023, “Jiaoyufication as an education-driven gentrification in urban China: A case study of Nanjing,” *Journal of Geographical Sciences*, 33:1095-1112.

[39] Tompkins, A. and Cook, T. and Miller, E. and LePeau, L. A., 2017, “Gender influences on students’ study abroad participation and intercultural competence,” *Journal of Student Affairs Research and Practice*, 54(2):204-216.

[40] Treiman, D. J., 2013, “Trends in Educational Attainment in China,” *Chinese Sociological Review*, 45(3):3-25.

[41] UNESCO, 2022, “Global flow of tertiary-level students,” Available at: http://uis.unesco.org/en/uisstudent-flow

[42] Wang, X., & Chen, B., 2023, “Investing in sons or daughters? The educational aspirations of rural parents in China,” *British Journal of Sociology of Education*, 45(1):101-118.

[43] Wang, X., & Feng, X., 2021, “Family Resource Dilution in Expanded Families and the Empowerment of Married Only Daughters: Evidence from the Educational Investment in Children in Urban China,” *Frontiers in Psychology*, 12.

[44] 呉暁剛，2016,「中国当代的高等教育、精英形成与社会分層来自‘首都大学生成長追踪調查’的初步発見」『社会』36(3):1-31。

[45] 吴愈晓・黄超, 2015,「中国教育獲得性别不平等的城鄉差异研究：基于CGSS2008数据」『国家行政学院学報』(2):41-47.

[46] 吴愈晓，2012，「中国城鄉居民教育獲得的性别差异研究」『社会』32(4):112-137.

[47] ————，2013，「教育分流体制与中国的教育分層 (1978-2008) 」『社会学研究』(4):179-202。

[48] Xiang B. and Shen W., 2009, “International student migration and social stratification in China,” *International Journal of Educational Development*, 29(5):513-522.

[49] Xue, P., Shi, C., Zhang, W., He, G., & Zhao, Y., 2018, “Educational Expectation Occupational Expectation Going-Abroad Expectation—A Study of Expectations of Primary and Middle School Student Parents for the Future of Their Children,” *Chinese Research Perspectives on Society*, Volume 3.

[50] 許琪，2018，「父母外出対農村留守儿童学習成績的影响」『青年研究』(6):39-51,92.

[51] Yang, T., Wang, L., Wang, Z., & Kutel, Z., 2020, “Chinese residents' environmental concern and expectation of sending children to study abroad,” *PLoS ONE*, 15.

[52] 叶華・吴曉剛，2011，「生育率下降与中国男女教育的平等化趨勢」『社会学研究』26(5):153-177,245.

[53] Zeng, J. and Pang, X. and Zhang, L. and Medina, A. and Rozelle, S., 2014, “Gender Inequality in Education in China: A Meta-Regression Analysis,” *Contemporary Economic Policy*, 32(2):474-491.

[54] Zhang, L., 2024, “School District Housing Buyers and Educational Investment Returns: A Case Study of X District in Shanghai,” *Advances in Social Science and Culture*, 6(5):125.

[55] Zhou, X., Li, J., & Jordan, L., 2019, “Parental intent for children to study abroad: the role of educational aspiration and children’s characteristics,” *Cambridge Journal of Education*, 49:789-807.

[56] 周飛帆, 2022,「留学選択と階層 : 中国人中高生の親に対する質問紙調査を中心に」千葉大学大学院国際学術研究院 .

[57] Zhu, X., & Yang, S., 2022, “Factors influencing Chinese parents’ willingness to send children to study abroad: findings from the China family panel studies,” *Asia Pacific Journal of Education*, 45:164-177.

Parents' Expectations of Children's Overseas Education in China Gender Gap Driven by Regional Educational Opportunities and Family Structure

Xianya HOU

Abstract:

The number of international students has grown remarkably amid the boom of study abroad programs in China. However, is the distributed of this phenomenon consistent across society? Using data from the China Family Panel Studies for 2018, this study empirically examines the influence of opportunities to acquire higher education at the provincial level on parents' expectations of their children's overseas education, with a focus on family structure. The results reveal that in regions with more opportunities for higher education, parents' expectations that their female children could enter study abroad programs significantly decrease among single-child families, whereas that for male children remain the same. This asymmetric effect leads to a paradoxical phenomenon: despite the greater availability of domestic education, the gender gap in expectations regarding overseas education widens. These findings indicate that decreased resource constraints do not necessarily mitigate gender disparity in aspirations to acquire international education. A gendered preference mechanism forms the basis of this falsehood: a *substitution effect* driven by high-quality local opportunities for daughters and a *male-preference investment strategy* rooted in cultural norms for sons. By integrating regional educational resources, family structure, and gender, this study offers a novel explanatory model for elucidation the formation of parents' expectations about the international education of their children.

Key Words : Overseas Education Expectations, Family Structure, Higher Education Opportunities, Regional Disparities, Gender Gap